

学生の確かな学びを保証する、より充実した 大学一般教養英語講座の構築を目指して －学生からの継続的フィードバックの活用

大池京子

要約

学習者と教師が目標を共有し、その達成に向けて奮闘する時、最大限の学習効果が現れる。しかし、通常約40名程の学生から成り、15週間に亘る大学の一般教養英語講座では、綿密な計画の元でシラバスをデザインし、授業を展開した後、教師の意図した活動と学生の認識との間にいつの間にかズレが生じ、学期末の授業評価まで持ち越されてしまうことが時折ある。著者は、学生による継続的フィードバックシートを用いてそうしたズレを縮めることに努めている。また、この手法は学生と教師の両方にとって有益であると考えられる。学生は、英語学習へのモチベーションを維持し、また自分の学習に対して意識を持ち、主体的になっていくことができる。また、教師は、集積したデータを分析することで、タイムリー且つ継続的に授業の改善を図ることができる。この研究ノートでは、データ収集の方法と、その分析を通して、いかに継続的に授業改善が行われ、次学期のシラバスデザインに活かされたかを報告したい。

キーワード：学生による継続的フィードバック、意識づけ、授業改善、専門性開発

I. はじめに

授業を担当する際、教師はニーズ・アナリシス、教材選択、シラバス作成、授業実践、評価という一連のプロセスを踏み、綿密に講座を構築していく。著者もこれまで、幼児からビジネス英語、資格試験対策講座等、様々な講座を担当してきた。ここ数年は特に、大学一般教養英語講座を始め、TOEFL、TOEIC、難関大学入試対策講座、英検1級対策講座など多岐に亘るクラスを担当し、学習者の目標達成と一緒に奮闘してきた。

特に大学の講座では、聴覚障がいを持つ学生が参加するクラスや、非常に英語を苦手とするクラスから、比較的上位の英語力のクラスまで担当する機会を得て、その都度、学生一人一人に確かな学習が起り、力を伸ばす授業構築の方途を模索してきた。

通常、教師の取り組みは、生徒による学期末の授業評価アンケートに反映され、時には教師にとって有益な率直な意見もある反面、教師が意図したことと学生の認識との間に、予想外のズレや誤解がある、ということもあった。表面に現れづらい学生の思いを、より早期に把握して対応していれば改善できていただろう、と思うことも少なからずあった。

そこで著者は、日常的に学生の授業認識(perception)をより正確かつタイムリーにとらえるべく、学生による継続的なフィードバックシートを用いることにした。本研究ノートでは、そのデータを活用して授業の修正と充実がどのように図られたか、その実践の経過報告と考察を試みたい。

II. 大学一般教養英語講座に盛り込んだポイント

大学一般教養英語講座の授業作りに際して、著者は常に以下の点をシラバス・授業実践に盛り込むよう努めている。

1. 学生のモチベーションを高く維持し、やがては学習者自身に自らの学習に対する動機づけが起こることを目指す。
2. 学生一人一人の英語学習への目標を教師が共有し、その達成に向け共に奮闘するファシリテーターとしての立場をとる。
3. 英語をコミュニケーションツールとして使う場を設定する。
4. 個々のスキルの弱点を補強し、バランスの取れた英語力を養う。
5. 英語を学ぶことの醍醐味を味わう場を作る。

教師がシラバスに盛り込み、毎回の授業実践で展開している、これらの重要ポイントを学生がどうとらえているのかをつかむために、学期末の授業評価に加え、学生による継続的なフィードバックシートをツールとして用いることとした。

Ⅲ. ツール：学生による継続的フィードバックシート

学生からのフィードバックを継続的に得るツールとして、「The Minute Paper」をモデルとした。これは、2007年11月、北星学園大学に於いて、ニール・アンダーソン氏を迎え「From Egg Crate to Omelet: Energizing Teacher Development」と題して開催されたワークショップで紹介されたものである。教師や教室がその範囲に留まり、他の教師と交流しないことは、卵のケースに似ている。物理的、心理的な殻を破り、他の教師、教室と交流することで、日々の教育実践にさらなる活力を与え、より良いものにしていく（大要）。そのために、教師が自分の実践を振り返るための13の方法がそこでは紹介された。その中の一つが、「The Minute Paper」であった。それは、授業の終わりに、次の2つの質問を生徒に問いかけ記述させていくものである。すなわち、Q1. Tell me one thing you found the most interesting/important in the day's lessonと、Q2. Tell me one question you have about the day's lesson.という質問である。そのねらいは、教師がその授業で意図した目標(teaching objectivesとlesson objectives)が、生徒側からはどうとらえられていたかを教師が把握することであった。

この手法は、授業終わりの3分間で簡便にでき、また、学生にプレッシャーを与えないシンプルな様式であるという利点があることから、本研究では、この「The Minute Paper」の項目をベースにしつつ、折々の授業のねらいに即し、やや変更して用いることとした。

補足ではあるが、通常、各課の学習に先立ち、学生にはワークシート課題が課される。そこでは、語いとフレーズの意味、発音とアクセントを押さえ、また、ディスカッションに備え、各テーマに沿って自分の意見をメモし、英語で表現するという取り組みをしている。このワークシートでも学生個々のライティングスキルや思考の進化・発展を見ることはできるが、フィードバックシートは、勿論それとは性格の異なるものである。両方を上手く補完しあうように利用すれば、さらに効果的であると思われる。

さて、話題をフィードバックシートに戻そう。今年度、小樽商科大学では、4月のオリエンテーション後の第2講、5月の第5講、6月の中間試験後と7月の定期試験時にフィードバックコメントを書く機会を設けた。回数としてはやや少ないようだが、テキストについているTOEICリスニング練習用紙の提出時にも短い感想を求めたので、全体としては学生の率直な意見を聞く機会はトータルで6回、ほぼタイムリーに取れていたように思われる。

クラスによって、時間の関係から質問項目数にやや違いが出る結果となったが、4月のオリエンテーション後は、1. 今日の授業の感想、2. このクラスに望むこと、3. 講師へのメッセー

学生の確かな学びを保証する、より洗練された大学一般教養英語講座構築を目指して - 学生からの継続的フィードバックの活用

ジ、を書いてもらった。5月の第5講後は、1. 今日の授業で一番印象に残っていること、2. 今日の授業で一番難しかったこと、3. 次回に向けて頑張りたいこと、を書いてもらった。また、試験後には、試験の率直な感想を書いてもらった。記名・記述式で、回答は英語・日本語どちらでもよいとし、複数回答も可とした。以下に、担当した3つのクラスについて、集約した主なデータ(2回分)を載せてみたい。

4/17	E114A	11名出席	
1. What was the most impressive in today's lesson?			
<ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーを取り入れた自己紹介は緊張したが、楽しかった。(7名) ・少人数ということもあり、アットホームな雰囲気。(3) ・説明が分かり易く参加し易かった。(2) ・ペースがゆっくりだった。(1) 			
2. What do you want to try in this class?			
<ul style="list-style-type: none"> ・読解を頑張りたい。(3) ・楽しく英語と触れ合いたい。 ・4年生なので絶対頑張って単位を取りたい。(各2) ・TOEICスコアアップを目指したい。 ・テキストの題材が面白そうだ。 : (各1) ・苦手のリスニング・スピーキングを伸ばしたい。 ・洋楽を聴きたい。 : ・教師の英語と日本語を交えての説明が分かり易い。 : 			

4/17	E115A	36名出席	
1. What was the most impressive in today's lesson?			
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく分かり易い。ペース、内容(コミュニケーション)、クラスの雰囲気が良い。級友の名前を覚えられた。グループ内の交流が良かった。(32) ・教師の英語と日本語を交えての説明が分かり易い。(4) ・自分のクラスができた感じがした。 ・教師にもっと英語を使ってほしい。(各1) ・少し自信をなくした。 ・ちょっと簡単だった。 ・リスニングの時、少し速い気がした。 : 			
2. What do you want to try in this class?			
<ul style="list-style-type: none"> ・読解力をつけたい。(7) ・リスニング力をつけたい。 ・会話・コミュニケーション力をつけたい。 : (6) ・TOEICのスコアをあげたい。 : ・使える、役立つ英語を学びたい。 ・発音を鍛えたい。 : (各3) ・教師は発音が良いのもっと英語で話してほしい。 : ・もっと積極的に発言したい。当ててほしい。 ・楽しく学びたい。 : (各2) ・英語アレルギーをなくしたい。 ・英語の基礎からやってほしい。 : ・単語・イディオム・語根の探求 : ・文法知識 ・英語を身近に感じたい。 ・自律しつつ学びたい。 ・CD音量高く。 : (各1) ・単調じゃない授業スタイルで。 ・ペア・グループ活動は苦手 ・優しさ : 			

4/17	E116A	21名出席	
1. What was the most impressive in today's lesson?			
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった。コミュニケーションが多く、全員参加だった。(15) 緊張の中にも、親しみ易く、みんな結構しゃべっていた。 ・英語とジェスチャーでの自己紹介タイムで、チームの連帯感があった。(4) ・ちょうど良いペース。(2) ・教師の英語と日本語を交えての説明が分かり易い。:(各1) ・プリントが馴染みやすい。・テキストの題材が取り組み易い。: 			
2. What do you want to try in this class?			
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力を伸ばしたい。(5) ・TOEIC (文法) の練習。(3) ・もっと発言したい。・苦手意識をとり、英語を使えるようになりたい。:(各2) ・リスニング・ライティング・スピーキングの能力をバランスよく伸ばしたい。: ・リスニング力を伸ばしたい。: ・話す機会を増やしてほしい。・留学生とコミュニケーションしたい。:(各1) ・グループ活動に期待感。・音読や会話をしたい。・5 講時だが頑張りたい。: ・しっかり予復習し、会話力を磨きたい。・英語と日本語を交えての説明が良い。: 			

5/8	E114A	10名出席	
1. What was the most impressive in today's lesson?			
<ul style="list-style-type: none"> ・(グループ) ディスカッションの際、メンバーから学んだ新たな発見があった。(5) 自分の(拙い)意見を傾聴してくれた。始めは難しく上手く進まなかったが、最終的にまとまった。 ・洋楽のメロディと歌詞(4) ・プリントの中の漫画が面白かった。(1) 			
2. What was the most difficult in today's lesson?			
<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション。自分は積極的だったが、メンバーがシャイで英語で話す(8) ことにやや消極的だった。もっと積極的に英語で話したい。 ・音読が難しかった。・語の意味は分かっても発音がすぐにできなかった。(各1) 			
3. What do you want to try in the next lesson?			
<ul style="list-style-type: none"> ・予復習をしっかりしたい。(3) ・ディスカッション・TOEICリスニングスコアをあげたい。(各2) 			

5/8	E115A	33名出席	
1. What was the most impressive in today's lesson?			
<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション。楽しく新鮮だった。多様な意見が出た。交流の中で(23) テーマについて新たな発見があり盛り上がった。他のグループの意見が聞けた。 タモリや小泉さんの人気に驚いた。 			

- ・洋楽のメロディと歌詞。新鮮で感動した。もっと聞いてみたい。(12)
- ・授業の雰囲気が良かった。(1)

2. What was the most difficult in today's lesson?

- ・ディスカッション。必要な単語を見つけられず、上手く意見を書き表わせなかった。上手に話せなくて残念。進め方も難しかった。グループメンバーの意見をまとめてクラスに報告する文章を作ることが難しかった。(15)
- ・ディスカッション。日本円の特徴を英語で表現すること。お札の新しい顔をイメージすることが難しかった。テーマであるお金についてあまりイメージがわかなかった。(4)
- ・サマリー完成で、本文と違う表現(パラフレーズ)があり難しかった。
- ・本文内の分詞構文の説明が難しかった。(4)
- ・リズムに合わせて歌うのは音読と違い難しかった。 ・もっと英語を使いたい。(各2)
- ・宿題 (1)

IV. データ分析から見えてきたこと

学生によるこの継続的なフィードバックシートは2方向に有益であると思われる。一つは、フィードバックシートは学生が自分自身の学習プロセスを(困難さや進歩も含めて)意識し、表出するツールと成り得る点である。これは、学期始めに行うことで、学生に自分の学習に責任を持たせ、学期中は、常に学生のモチベーションを高く保つと共に、自分の学習状況を意識し(consciousness raising)、中・長期的には、学生が主体的に動機を持って学習活動を続けていくself-motivated learnerへと成長する土台づくりになると思われる。

また、教師にとっては、2つの点から有意義である。1) その日の授業が達成目標(意図)にどれ位到達したものだっのかを把握するとともに、2) 授業場面を振り返り、どこをどうしていれば、より良い展開になっていたのかを探ることができる。これらを次回以降の授業作りに反映させることによって、教師は継続的に授業を改善・進化させていくことができるであろう。

V. フィードバックシートがもたらした授業改善・進化の例

フィードバックと授業改善は、継続的にサイクルのように作用し合う。ここでは、小さなスケールから大きなシラバスデザインまで、著者が行った授業・シラバス改善の例をいくつか紹介したい。

1) 授業の改善・修正として採用された学習活動の例

- ・アサヒウィークリースキャニングエクササイズ
(生活費を稼ぐために学校に行かず水を売るシェラネバダの少年達)
- ・洋楽と歌詞 (True Colors)
- ・テキストテーマに関連した読み物と視聴覚教材 (ジャパントイムズに掲載された、異文化理解の難しさに関する漫画。TICAD (アフリカ開発会議) を特集したNHKバイリンガルニュースと新聞記事の連動)
- ・英語でのディスカッションの進め方の指導: リーダーと参加者の役割の明示とフレーズ練習。しかし、学生がディスカッションの醍醐味を十分に味わうためには、よりタイムリーできめ細かなミニ練習活動が必要であったと思われる。この反省点は次回以降にぜひ活かしていきたい。それは、1つには、大学生にとって、率直に意見を交流し合える仲間の存

在を実感することや、一定のテーマに沿って論じ合える力を培うことは、人間形成と思考の深化のうえで必須であると思われるからである。また、もう1つには、視野を広げ、思考を深めるディスカッションテーマを設定し、論じ合う場を提供することは、学生と社会を結ぶ機会となる、いわば英語教育の根幹であると考えられるからである。

2) シラバスデザインへの活用の例

a : 英語が苦手な学生のクラスでの実践

他大学での実践例であるが、フィードバックシートで集めたデータをヒントに、1)初回講義時に学生の英語学習への意識調査をし、2)高校既習文法事項のポイントをまとめたワークシートを作成し、理解度があやふやな項目にチェックをさせる。3)オンラインのリメディアル文法学習プログラムを紹介し、実際に授業内で体験させてから、セメスターを貫く取り組み課題として設定。4)普段の授業において、日英の文章・パッセージの組み立て方や発想法の違いを意識させる提示法を工夫し、読解指導やディスカッション指導に活かす取り組みを継続している。

学生達はプレイスメントテストを受け、ほぼ同じ英語力の学生で構成されているクラスではあるが、これまでの英語学習経験の差により、それぞれ苦手とする文法ポイントやスキルにはかなりバラツキがある。そこで、学生一人一人が自分の英語力の弱点補強をする手段として、マイペースで何時でも何度でも繰り返し取り組むことのできる、オンラインのセルフスタディプログラムを中心に据えて、あきらめずに英語の土台を補強・再構築するチャンスにするよう奨励している。その取り組みを横糸とするならば、普段の授業での学習活動を縦糸として、学生が主体的に英語学習に取り組む、達成感のある学期になるよう実践している最中である。

b : 中級英語学習者のクラスでの実践

小樽商科大学では、大学と学生双方のニーズをもとに、1) TOEICの試験内容を意識して、テキスト関連の学習活動にスキニングやディクテーションを織り込む、2) TOEICのフォーマットをとらえさせるために、ミニバージョンのTOEICを取り入れる、3) TOEICの各パーツに対する有効な対策を授業時に少しずつ取り入れて練習させる、ことを今学期のシラバスに反映させている。また、4) 普段の授業で英語の基礎体力(4技能におけるコミュニケーション力)を向上させること、を意識して実践している。

VI. おわりに

学生からの忌憚なきフィードバックは、教師にとっては授業改善への素晴らしいリソースである。それは、学生の内なる学習状況を表出させ、そのつまずきや達成感をとらえて、個々の生徒に寄り添いながらも、求心力を持って授業を進めていくための原動力と成り得る。そしてそれは、ニール・アンダーソン氏が、"The key to successfully moving from the egg crate to the omelet is using these tools to make aspects of our teaching public. The tools provide a way to engage in meaningful discussions with other teachers about how teaching and learning can be improved."と"reflective practice"を授業実践に取り入れることを推奨したように、教師がより良い教育を学生に提供していくために効果的であると思われる。学生が自分の

学生の確かな学びを保証する、より洗練された大学一般教養英語講座構築を目指して – 学生からの継続的フィードバックの活用
学習に目的意識的に取り組み、やがては自立した学習者(self-motivated learner)に育っていき
るよう育むことは教師の醍醐味であろう。そのような方向性を与えられるように、これからも学
生の視点を大切にしながら、一人一人の確かな学びを保証する、より充実した大学一般教養英語
講座の構築を目指していきたい。

参 考 文 献

Bailey, Kathleen M., Curtis, Andy, and Nunan, David. (2001). *Pursuing Professional Development-The Self As Source*. Canada: Heinle & Heinle. pp. 22-154.

Creating Better University General English Courses to Assure Student Learning Using Student Continuous Feedback Sheets

by

Kyoko Oike

Abstract

When students and a teacher share a goal and strive to achieve it, the best outcome is achieved. However, in general, in 15-week long university General English courses with about 40 students, even after designing well-thought out syllabi and conducting well-taught classes accordingly, still misperceptions arise between the students and the teacher, without notice. The author utilizes student continuous feedback sheets to minimize such misperceptions and create more substantial courses. The feedback tool seems to be beneficial for both: for students to raise motivation for learning and raise consciousness of their learning; and for the teacher to continuously refine her teaching skills in a timely manner by analyzing the data and thus modifying the parts students misunderstood. This in-progress research note reports a method to collect data, its analysis, and then how analysis of the data leads to the further development of each course.

Key words: student continuous feedback, consciousness raising, course refinement,
professional development